

単元名：ひしゃくぼし

「めにみえないうつくしいもの」

(全1時間扱い中 第1時)

授業日時 令和3年10月22日(金)第3校時

授業学級 1年1組

授業会場 1年1組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立てとねらい)

くじらぐもの授業で屋上から景色を眺めるなど、「綺麗だなあ」「素敵だなあ」という気持ちが自然と湧き上がるような体験をしてきた子どもたちが、ひしゃくぼしのお話から、目に見えない美しいものについて考える場面で、病気のお母さんが待っているのに自分よりも相手のことを思いやる女の子の姿を通して、目に見えない美しいものの存在や価値などに気付き、多角的な視点から美しさについて考えたり、思いやりの心を持って日々を過ごしたいという気持ちを高めたりすることができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの動き	・指導 ※留意点 《教材》 【評価】	時間
導入	1. 「美しい」や「美しいもの」について考える。	「綺麗だなあっていう感じ」 「お花とか、空とか！あとは音？」 「この前に見た満月！」 「屋上から見た景色！」	「みんなは『美しい』っていう言葉を知ってる？」 「みんなが考える美しいものって何だろう？」 ※みんなが思い浮かべる美しいものは、主に目に見える物であることに触れ、学習問題を示す。 「今日は、目に見えない美しいものについて考えていきたいと思います。」	5
	【学習問題】目に見えない美しいものって何だろう？			
	2. ひしゃくぼしのお話と出会う。	「ひしゃくって何だろう？」 「星のお話なのかな？」 「ひしゃくって何だろうって思った。」 「銀のひしゃくが金になるところ！」 「ダイヤモンドが飛び出したところ！」 「女の子は色んな人に何で水をあげたの？」* 「ひしゃくを渡した。」 「犬やお母さん、旅人にお水をあげた。」 「困っている人がいたから。」 「水がなくなって欲しくなったから。」 「病気のお母さんにお水を飲ませてあげたいと思ったから。」	「これから、ひしゃくぼしという話をみんなで聞きたいと思います。」 ※教科書 p.81 を開くように伝える。 ※iPad でひしゃくぼしの音声(3分)を流す。 「話を聞いてみて、不思議だなあと思ったところはあある？」 ※左記*のような発言がなければ、教師自身が感じた不思議なこととして伝える。 「ひしゃくが変わる時、女の子は何をした？」 「何でお水をあげたんだろう？」 「でもちょっと待って、お母さんが待ってたんだよね？女の子は色んな人にひしゃくの中のお水をあげていたけど、そもそも何でひしゃくを持って行ったんだっけ？」	10
	【学習課題】病気のお母さんが待っているのに、どうして女の子はお水を分けてあげたんだろう？			
展開	3. 学習課題についてペアで考え、全体で共有する。	「助けたいと思ったから。」 「優しいから。」	「いつものペアで話し合ってみて。」 ※机間指導や、必要に応じて個別支援を行う。 ※目安：ペアワーク5分+全体共有5分=10分	10
	4. 女の子を自分に置き換えて考える。	「私も女の子と同じでお水をあげると思う。」 「目の前に困っている人がいたら助けたい。」 「お母さんに元気になってほしいから、私はお水を分けてあげないと思う。」 「自分で飲んじゃうかもしれない。」	「じゃあ、みんなが女の子だったらどうする？」 ※どの立場の人にも理由を尋ねたり、「本当に？」等と問いかけたりして、子どもの心を揺さぶる。 「みんなの意見を聞いて、少し迷い始めた人はいらる？最初と意見が変わった人はいらる？」	15
終末	5. 振り返り	「困っている人がいたら、私も女の子みたいに助けたいと思った。」 「私なら家族を一番に考えると思う。」	「今日の授業で感じたことや、これからやってみたいことなどを書いてみましょう。」 ※1人1枚ずつ振り返りシートを配る。	5

【評価(対象)】多角的な視点から美しさについて考えたり、思いやりの心を持って日々を過ごしたいという気持ちを高めたりすることができる。(授業中の様子・発表・振り返りシート)